

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100100		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホームすみよしの憩 (1F)		
所在地	岐阜県 可児市 今渡 字鳴子 2348-2		
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JijvsvCd=2193100100-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成31年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様を「支援している」ではなく「支援させていただいている」との気持ちを持ち、個々の利用者様に合った役割やレクリエーションへの参加をして頂きながら、「もう出来ないだろう」ではなく「まだ出来る」と実感を持って頂き、日々の生活が充実したものとなるように心がけています。また、ご家族様やご友人の方々から来所しやすい雰囲気作りを行い、交流が途切れることのないよう関係作りにも努めています。夏、秋の家族会の開催、ボランティアの方々との交流、外出レクリエーションを通じて、生活に楽しみが持てるように努め、その内容をお手紙やブログ等で紹介しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅地にあり、近くを可児川が流れている。利用者は、住み慣れた地域の中で、見慣れた景色を見ながら、一人ひとりが役割を持って、穏やかに暮らしている。職員は、発想力と専門性を発揮して、利用者の持てる力を活かしながら支援し、「まだ出来る」という自信につなげている。法人のホームページ内にある事業所のブログは、ほぼ毎日更新しており、家族にも喜ばれている。また、入居希望や就業希望等の情報提供にもなっている。管理者は、職員の研修受講や資格取得を奨励して人材育成に努め、その成果が、利用者サービスの質の向上に繋がり、職員間の連帯感も強固にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員全員で法人・ホーム理念・接遇、介護の心得5カ条、及び職員の毎月の目標を唱和し共通認識のもとで実践に繋げている。	法人理念と共に、ホーム理念や接遇、介護の心得等を目立つ位置に掲示し、職員会議で、実践経過を検証している。利用者が住み慣れた地域と関わりながら、安心して暮らせるように、質の高いサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域・自治会とつながりを大切にし、季節行事の参加(自治会夏祭り・花火会・消防訓練等)や民謡教室等、日常的な交流を深めるように努めている。	自治会員として、地域の諸行事に参加している。認知症カフェでは、事業所の役割を発信し、地域のボランティアとの交流も継続している。ホームの夏祭りでは、近所の子どもたちと一緒に、花火も楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の場を活用し、グループホームや認知症に対する理解を深めていただける場としている。AEDの使用方法も伝えたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に、運営推進会議を開催し、市や自治会行事の情報をいただいたり、ご意見をサービスの向上につなげるように努めている。	会議は隔月に開催し、事業所の現状を報告しながら、意見を交換している。特に、事故につながるヒヤリハットについては、毎回議題として取り上げ、話し合いながら、参加者に、認知症への理解も深めてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議の場や日頃より連絡をとり、情報交換や助言をいただくことにより、サービスの向上を目指している。	運営推進会議には、市の介護保険課と、地域包括支援センターの担当者が出席している。担当者とは、相談事や報告事項等をメールでやり取りし、助言を得ている。市の介護相談員も受入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束・虐待防止の委員会を設け職員間で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は防犯上一般的な範囲で行っている。	事業所内に身体拘束・虐待防止委員会を設けている。内部研修を毎月行い、具体的な禁止行為を学び、職員間で共有している。スピーチロックについても学び、否定的、命令的にならないように徹底している。玄関は、利用者の安全と防犯を考慮し、施錠しているが、玄関フロアや1階・2階のユニット間の行き来は、利用者も自由に出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を全体会議で行っている。虐待に対する知識を持ち、虐待を行わないという、強い信念のもと日々ケアを行っている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会を行い権利擁護に関する内容の理解・活用例などを勉強している。相談があった場合などにいつでも説明や助言ができるようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は双方で確認しながら納得がいくよう説明している。また、よく尋ねられる疑問点などについて尋ねられる前にも十分説明し、同意を得ている。見学の際にも説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見や要望が挙げられるよう記入用紙を設けている。面会表にもご意見を頂ける項目がある。また、意見・要望・相談などが挙げやすい関係作りに努め、いただいた意見は運営に反映するように努めている。	家族の意見は、面会時や運営推進会議の場で把握をしている。インフルエンザ流行の時期には、家族が不安にならないよう、速やかに対策を講じ、予防にも取り組んでいる。ほぼ毎日のように更新しているブログやホーム便りでは、行事予定や利用者の様子を伝え、相互信頼につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議、個々の面談を通じて職員の意見や提案を交換し合い、働きやすい環境作りに努めている。	職員の意見や提案等は、定例会議で話し合い、個別面談でも聴いている。入浴支援では回数を増やし、職員の発想力で「拒否者はゼロに」と、工夫をしながら支援し、利用者の満足と質の高いケアの提供に取り組んでいる。	今年度の利用者支援目標として、「もう出来ないかも」ではなく、もう少しを更に「出来る」ようにしようと掲げている。その目標の実践と成果に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系を取っており、資格を取得した際には祝い金も支給される。また、グループ内で資格を取れるサポート体制が充実しており、職員は無料・割引料金で講習や資格取得の勉強会などに参加出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修は通知を行い積極的に参加できるよう支援している。また研修で得た知識を職員間で発表し合い、ケアの質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の施設とも交流を深め、(勉強会への参加も含め)また、市の会合に参加し情報交換を行い、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを複数の職員で行い、より多くの情報・ご希望をお聞きしながら利用者様に対するサービス計画を作成する。また、その情報を文書、口頭で全職員に伝え共有し、関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学時や入居時アセスメントの際にご家族様より多方面にわたり、情報・要望をいただき、入居後も連絡を取りながら、ご家族と共にケアを行いながら関係を作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談時にご利用者様本人とご家族様から希望や要望等の思いをお聞きして、話し合いながらサービス内容(歯科 マッサージ等)を提案し、支援・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の入居前情報のみならず、日常生活においても、声掛けをしながら出来る事を確認し、役割に参加していただきながら人間関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やホーム内行事やご家族様と話しをする機会ごとに必ず、利用者様情報を発信し、ご家族様と共に解決するべき事は共にむきあいながらご家族様との関係を築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外のご友人・ご近所様・教え子様等、面会に来られたお客様と、利用者様との時間が楽しく過ごせるような、場所と時間を提供している。またお手紙や年賀状もやり取りして頂いている。	家族や知人の訪問があり、元教師だった利用者様は、教え子との面会や賀状のやり取りなども継続できている。また、理美容や喫茶、買い物など、馴染みの店へ出かけたり、近郊の名所地へは、外出支援に組み入れている。家族の協力を得て、通院や一時帰宅をする人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日2回行われる体操やレクレーションに全体で参加してもらうように声掛けを行い、席位置も考慮して、協力して役割に参加しやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、培った関係を大切にし相談や情報提供などの支援が必要に応じて出来るような取り組みに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いや意向をコミュニケーションや日ごとの行動、言動、表情収集してから総合的にスタッフ間とも連携し合い、ケアに反映できるよう努めている。	日常の会話や日々のケア場面、また、映像も活用した音楽療法などで、一人ひとりの思いを把握するよう努めている。困難な場合は、問いかけの反応や表情から汲み取っている。職員は、常に利用者に寄り添い、出来ることを引き出しながら支え、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境を把握するため、入居前にご利用者様・ご家族様にアセスメントを行っている。また、他のサービス利用があった場合はサマリー等を通じたり、入居後も生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、スタッフ間で申し送りを行い、情報を共有し記録し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による毎月のモニタリングを参考にし、ご利用様を取り巻くご家族様、医療関係者と共有し、要望・意見をケアプランに反映作成している。	本人・家族の意向や職員の気づき、医療関係者、管理栄養士等の意見を介護計画に反映させている。利用者が、日々のリハビリで身体機能を維持し、活動的な生活が送れるようなプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日常の言動、様子を記録し申し送り合い、変化状況の把握に努め介護計画へ生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、ご利用者様、ご家族様のニーズに対して可能な限りサービスの実践へ相互協力の下、行っている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問を通じ交流を行ったり、地域行事・高齢者運動会等へ参加し楽しみが持てる様支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様やご家族様の意向を尊重し、ホームの往診医やかかりつけ医等ご希望の医療が受けられるようにしている。かかりつけ医からホーム提携医に変更される場合の支援もしている。	かかりつけ医は個々に継続している。希望者は、協力医をかかりつけ医とし、定期的に往診を受けている。法人の看護師や薬剤師の定期訪問もある。協力医とは、24時間の連絡体制があり、緊急時には、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回の健康管理を行い、入居者様の体調管理を行うなど適切な対応処置を行っている。また、いつでも連絡が取れるよう支援体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを作成し、往診医から入院医療機関への情報提供を行い情報交換に努めている。また、早期退院に向け、受け入れ体制を整え情報交換、支援にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の見学時、入居契約時にあってもホームの出来る事の説明を十分に行い、ご本人様やご家族様の思いを書面に表記し確認に努め取り組んでいる。	契約時に、ホームで出来る支援について説明し、段階的に話し合いながら、家族の選択を尊重している。緊密な医療連携の下、職員も不安なく終末期ケアに取り組み、職員間で共有している。また、家族の思いにも寄り添いながら、利用者が最期まで安心して暮らせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な対応が出来るように発生内容に応じた勉強会(AED 救急搬送方法等)を行ったり、講習に参加したり事故発生に対応できるよう実践力を身につけるべく努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回(地震後火災、夜間想定)し消防避難訓練を実施。地域の消防訓練への参加や避難訓練前に近隣の方々への通知や災害時の相互協力を行い協力関係を築いています。	災害訓練は、災害の種別や夜間も想定して実施している。2階からも安全に避難出来るよう誘導し、通報やAEDの操作も訓練している。また、停電時の対策にも取り組み、備品・食料の確認と点検をしながら、災害時において、地域との協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンス委員会を設置してプライバシーや接遇の勉強会を行い、朝の申し送り時接遇5原則などの唱和を行い、職員の意識向上に努めている。また個々の人格を把握しプライバシーや自尊心を尊重した介護を行っている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、接遇5原則を職員に周知・徹底し、ケアを行うよう努めている。利用者に声かけする際は、ゆっくり優しく、利用者に分かりやすい言葉で話すよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の自己決定や希望を表現しやすい環境作りの為、コミュニケーションを計り、信頼関係を築くように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは基本的に決まっていますが、ご利用者様の日々の状態や雰囲気や考慮しながら、ご希望に添いながら臨機応変に対応・支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は出来るだけご本人様に自己決定して頂き、季節に合わせた服装や上下のコーディネートにも心がけている。また訪問理容ではご本人様の希望に沿った髪型にして頂いている。ご希望の化粧品等をご家族様にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と共におやつ作りや食事の盛り付けを行っていただいたり、食器洗いや食器拭きなども皆様と共に行うようにしている。ご利用者様の好みに応じてメニューを変更したりする場合もある	利用者も食事の準備や片づけに関わっている。完食につながるよう、咀嚼力や嚥下能力に応じた形態を工夫し、家庭的な味付けで提供している。職員も利用者とは会話しながら介助を行い、同じ食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態が把握しやすいように食事や水分量の摂取状況を把握している。また、栄養士によるバランスのとれた献立を提供しているが、ご利用者様の状態によっては職員が工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己での歯磨き終了後の口内確認を実施し、必要な場合は補助でのケアを実施している。ご希望や必要に応じて歯科による口腔ケアも行っている		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々に排尿間隔、排泄サインを把握し、その時間やタイミングに合わせてトイレ誘導を行う。むやみにオムツは使用せず、出来る限り自分で排泄を促すよう努めている。入居者様によっては立位運動を取り入れトイレでの排泄ができるよう支援している	個々の排泄パターンに沿って、トイレへ誘導し、自立を支援している。排泄用品は、持ち込みとホームの提供品を選択することができ、費用負担の軽減にも努めている。夜間は、リハビリパンツと利用者の状態に合わせたパッドを選択し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や廊下歩行訓練を実施し、水分摂取を促したり、入浴時の腹部マッサージや温タオル等で腹部を温める等排便を促している。出来る限り自然排便が出来るよう促しているがそれでも改善がない場合は医師の指示のもと下剤を使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本にしているが、希望がある際や状況に応じて入浴できるようにしている。立位困難な方にはシャワーチェアを使用したり出来る限り入浴を楽しめるように努めている。寒さが苦手な方の為、ヒーターを使用したりしている。	入浴は、毎日でも入れるよう、ユニット間で調整をしている。現在、入浴拒否の人はなく、個々のペースや習慣に合わせて、ゆったりとした入浴を支援している。重度者用のシャワーチェアも備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が強い利用者様には食事と食事の間に1時間程度居室して休んでいただいている。また、エアコンを有効に使用し安眠の手助けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診情報は各職員が閲覧できるようにし、薬の変更の把握を行っている。薬剤師からのアドバイスも往診情報に記載し分かるようにしている。薬事情報はいつでも閲覧できるようファイルされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前と午後の2回、レクリエーションを実施している。また、洗濯ものをたたんでもらったり、洗った食器を拭いてもらったりと、無理のない範囲で行ってもらっている。タバコを吸う方も吸える様になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、晴天で気候が穏やかな日は職員と一緒に散歩や買い物に出かけたり、日当たりの良い玄関先で日光浴をして楽しんでいる。家族様とも気軽に外出できるようにしている。	日頃は、周辺の散歩や、庭での日光浴で外気に触れている。市内の花フェスタ公園や、秋の行楽として、中山道太田宿にも出かけ、楽しい時間を過ごしている。また、外食や買い物に行ったり、家族の協力を得て、一時帰宅なども支援している。	

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの金銭管理はしていないが、ご利用者様・ご家族様の意向がある場合は個人の金銭管理の支援は可能である。共に買い物に出かけた際は個人の買い物もして頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年の年賀状は出来る限りご利用者様にメッセージを書いていただいたり、手紙のご要望があれば郵送するようにしている。ご家族様からのお電話があった場合は取り次いだり、希望に応じてご家族様に電話を掛けていただくように心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、リビングには、季節感のある花や写真の飾り付けを行い、心地よい空間を演出するように努力している。室温や証明は職員が過ごし易いかではなく、利用者様の視点での調節をするように心がけている。	共用空間の要所に、季節の花や観葉植物を飾っている。壁には、暮らしの様子が分かる写真や外出時の記念写真、絵画などを飾っている。手作り作品は、季節毎に入れ替え、文字表示は、利用者が分かりやすいよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自己にて移動が可能な方は自身の判断にて、居室で過ごしたりしている。ソファで過ごされたり自席で過ごしたり、廊下奥のベンチなど思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご希望に応じてご利用者様が以前から使い慣れた家具や化粧品、思い出の写真など自由に持ってきていただき、より安心して、生活を送っていただけるように工夫している。	居室は換気扇も備えており、大型のクローゼットで私物や日用品が整理整頓されている。馴染みの家具も自由に持ち込んでいる。家族や孫の写真を目線に飾り、表札は本人が認識しやすく、個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、居間の壁面には手すりが張り巡らしてあり安全に移動できるようにしている。居室には名札、トイレには大きな文字で「トイレ」「便所」などと表示して分かりやすいようにしてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100100		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホームすみよしの憩 (2F)		
所在地	岐阜県 可児市 今渡 字鳴子 2348-2		
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成31年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員全員で法人・ホーム理念・接遇、介護の心得5カ条、及び職員の毎月の目標を唱和し共通認識のもとで実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域・自治会とつながりを大切にし、季節行事の参加(自治会夏祭り・花火会・消防訓練等)や民謡教室等、日常的な交流を深めるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の場を活用し、グループホームや認知症に対する理解を深めていただけの場としている。AEDの使用方も伝えたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に、運営推進会議を開催し、市や自治会行事の情報をいただいたり、ご意見をサービスの向上につなげるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議の場や日頃より連絡をとり、情報交換や助言をいただくことにより、サービスの向上を目指している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束・虐待防止の委員会を設け職員間で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は防犯上一般的な範囲で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を全体会議で行っている。虐待に対する知識を持ち、虐待を行わないという、強い信念のもと日々ケアを行っている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会を行い権利擁護に関する内容の理解・活用例などを勉強している。相談があった場合などにいつでも説明や助言ができるようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は双方で確認しながら納得がいくよう説明している。また、よく尋ねられる疑問点などについて尋ねられる前にも十分説明し、同意を得ている。 見学の際にも説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見や要望が挙げられるよう記入用紙を設けている。面会表にもご意見を頂ける項目がある。また、意見・要望・相談などが挙げやすい関係作りに努め、いただいた意見は運営に反映するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア一会議、個々の面談を通じて職員の意見や提案を交換し合い、働きやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系を取っており、資格を取得した際には祝い金も支給される。また、グループ内で資格を取れるサポート体制が充実しており、職員は無料・割引料金で講習や資格取得の勉強会などに参加出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修は通知を行い積極的に参加できるよう支援している。また研修で得た知識を職員間で発表し合い、ケアの質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の施設とも交流を深め、(勉強会への参加も含め)また、市の会合に参加し情報交換を行い、サービスの質の向上を目指している。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを複数の職員で行い、より多くの情報・ご希望をお聞きしながら利用者様に対するサービス計画を作成する。また、その情報を文書、口頭で全職員に伝え共有し、関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学時や入居時アセスメントの際にご家族様より多方面にわたり、情報・要望をいただき、入居後も連絡を取りながら、ご家族と共にケアを行いながら関係を作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談時にご利用者様本人とご家族様から希望や要望等の思いをお聞きして、話し合いながらサービス内容(歯科 マッサージ等)を提案し、支援・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ることを把握し、出来る範囲の役割(食器拭き 洗濯 掃除等)を行っていただけるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会等のホーム内行事に参加していただいたり、必要な物を持って来ていただいたり病院送り迎え等、共に支えているという機会を持つ事を大切にしている。日々の面会やホームからの便りを通じてご家族様との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人・ご近所の方が来ていただきやすい雰囲気作りに努めている。また、地域の催し物やなど馴染みのあった場所に出かけるよう支援に努めている。またお手紙や年賀状もやり取りしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が孤立しない様に個性や関係性を把握し、対応を行うことでご利用者様同士の関係向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、培った関係を大切にし相談や情報提供などの支援が必要に応じて出来るような取り組みに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いに沿った暮らしの支援を行えるよう、入居前の事前アセスメントをはじめ、入居後も定期的にあセスメントを行い利用者様、ご家族様の希望や意向を生活面に反映出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境を把握するため、入居前にご利用者様・ご家族様にアセスメントを行っている。また、他のサービス利用があった場合はサマリー等を通じたり、入居後も生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝夕に日勤帯勤務と夜間勤務者で申し送りを行い、職員間で情報共有を行っている。とともに、介護記録に利用者様の活動や言動を記録に残し状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段からご利用者様の言葉や行動を把握し、ご家族様や医療関係者・職員ともモニタリング、全体・フロア会議等で共有して思いや要望・意見をケアプランに反映するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の言葉や日常の様子を日々介護記録に記録している。また、引き継ぎ時の職員間での申し送りを行い、ご利用者様の状況や変化などを把握し毎日の介護に役立ったり、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ご利用者様、ご家族様のニーズに対してご家族様にご協力を得るなど状況に応じて柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問を通じて趣味を楽しんでいただいたり、地域の催し物に出かける等、地域とのつながりが保て、生活の中に楽しみが持てるよに支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様やご家族様の意向を尊重し適切な医療が受けられるように支援している。また、かかりつけ医への情報提供・連絡がスムーズに行えるよう支援している。(電話 申し送りノート サマリー等)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回の健康管理を行い、入居者様の体調管理を行うなど適切な対応処置を行っている。また、いつでも連絡が取れるよう支援体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーを作成し往診医からは情報提供書を送付してもらう等、医療機関と情報交換を行い対応している。また、早期退院に向け受け入れ態勢を整え、情報交換を行い支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の見学時、及び入居契約時にホームで出来る事を説明し、契約時にはご本人様、ご家族様の思いを確認し書面に書いてもらうようにしている。全体会議で終末期ケアについて学ぶ機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な対応が出来るように発生内容に応じた勉強会(AED 救急搬送方法等)を行ったり、講習に参加したり事故発生に対応できるよう実践力を身につけるべく努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回(地震後火災、夜間想定)し消防避難訓練を実施。地域の消防訓練への参加や避難訓練前に近隣の方々への通知や災害の相互協力を行い協力関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンス委員会を設置してプライバシーや接遇の勉強会を行い、朝の申し送り時接遇5原則などの唱和を行い、職員の意識向上に努めている。また個々の人格を把握しプライバシーや自尊心を尊重した介護を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の自己決定や希望を表現しやすい環境作りの為、コミュニケーションを計り、信頼関係を築くように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは基本的に決まってはいるが、ご利用者の日々の状態や雰囲気や考慮しながら、ご希望に添えるよう臨機応変に対応・支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合うよう、可能な限りご利用者が自己決定した服を着ていただいている。訪問理容では自分好みの髪型や毛染め等もしている。行きつけの理容を希望の方にはご家族様との外出支援も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状態に応じて食事の準備や食器洗いや食器拭きなどを行いながら、食事とともに楽しめる雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態が把握しやすいように食事や水分量の摂取状況を把握している。また、栄養士によるバランスのとれた献立を提供している。なかなか、食事を摂られない方も自己で摂取できるよう、工夫したり声をかけるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にご利用者に口腔ケアの声かけ支援をおこなっている。また、必要に応じて夕食後には義歯の洗浄をおこなっている。ご希望や必要に応じて歯科による口腔ケアも行っている		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄周期や排泄サインを把握して、羞恥心に配慮しながらそれぞれの排泄パターンやサインに合わせて声かけを行い、出来る限り自立での排泄を行えるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日リハビリ体操や廊下歩行訓練を実施し、水分摂取を促したり、入浴時の腹部マッサージや温タオル等で腹部を温める等排便を促している。医療とも連携しながら、ご利用者様の排泄状態に合った処方を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本にしているが、希望がある際や状況に応じて入浴できるようにしている。また、着替えをご自分で選んでいただいたり、利用者様のペースに合わせた入浴時間となるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様それぞれの入床時間に合わせている。ご利用者様によっては居間や居室で睡眠前にテレビを楽しまれたりすることもある。身体状況に応じて希望があれば昼も休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診情報は往診当日に各職員が閲覧できるようにし、薬の変更の把握を行っている。薬事情報はいつでも閲覧できるようファイルされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様に合った役割やレクリエーションを提供したり、天気の良い日には散歩に出かけたり、訪問ボランティアの方との交流、音楽療法への参加など日々の楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は出来る限り散歩へ出かけたがり、日向ぼっこなどを行い外の空気に触れて頂いている。また、ご家族様との外出も気軽に行える環境を整えている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの金銭管理はしていないが、ご利用者様・ご家族様の意向がある場合は個人の金銭管理の支援は可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年の年賀状は出来る限りご利用者様にメッセージを書いていただいている。ご家族様からの電話があった場合は居室で話が出るように支援している。手紙の要望があれば郵送できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、リビングには、季節感のある花や写真の飾り付けを行い、心地よい空間を演出するように努力している。室温は職員が過ごし易いかではなく、利用者様の視点で温度や湿度の調節をするように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブル席とソファ席があり、1階にはウッドデッキ、また廊下奥や階段踊り場にも椅子があり、共用空間の中でも個人でも皆さまでも過ごせる居場所が作れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはご利用者様が以前から使い慣れた家具やテレビ、懐かしい写真やお孫様からの贈り物などを飾ったりし、より安心して、馴染みのある環境で生活を送っていただけるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には名前プレートを見やすい位置に掲げている。また、トイレには「トイレ」「お手洗い」の2つの名称を表記してわかりやすいようにしている。時計もどこからでも見やすいようにしている。		